

今日のみことば

□ 4月16日(日) エペソ 5章

パウロが「神にならう者となりなさい」という思い切った言葉の裏には、多くのキリスト者が神の栄光を表すことがない無思慮な信仰生活があったことを思い起こさせられる。

□ 4月17日(月) エペソ 6章

この手紙の結論として、「悪魔の策略に対抗して」「立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身につけなければ」ならないことを勧める。

□ 4月18日(火) ピリピ 1章

パウロが心にかけていた唯一のことは福音の前進であった。彼の投獄はローマ皇帝の親衛隊にキリスト証しする驚くべき機会となった。またパウロにとっての関心事は福音の内容でした

□ 4月19日(水) ピリピ 2章

私たちの模範として描かれているすばらしいイエスの姿を見ます。死に至るまで従順であられたイエスに、私たちは倣うのです。

□ 4月20日(木) ピリピ 3章

パウロは、キリストを知りまつたとき、それまですばらしいと思っていたものがすべて無価値に見えてきた。それほどキリストを得ることはすばらしいことなです。

□ 4月21日(金) ピリピ 4章

パウロはピリピ教会の献金に、彼らの信仰の成長を見ました。彼らを強めて下さるキリストは、富むことにも乏しいことにもあらゆる経験に対処する秘訣を示して下さいました。

□ 4月22日(土) コロサイ 1章

コロサイ教会にあった偽りの教えは、キリストにある栄光のすべてをはぎ取るものでした。パウロはキリストが「すべてにおいて第一のもの(至高者)」であることを明かした。

ろ ば No. 1811

2017年 4月16日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ルカ24:11

使徒たちは、この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった。

私はあのナザレのイエスを、十字架の上で叫び声を上げて息を引き取られたイエスを、見上げさせていただく時、神がなされるみ業をしっかりと心の奥底に受け止めさせていただいて、私は「神は愛なり」と告白させていただく、その

の思いに導かれています。イエスがどのような思いで十字架への道を歩んでおいでになったか。苦悩の極みであったであろうと思っています。ところがヘブル書の記者は「彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないうで十字架を忍び」(ヘブル12:2)と、その時のイエスの思いを語るのです。イエスには勝利の栄光が見えていたと言うことです。イエスの復活の証拠探しなど愚かと言うほかありません。

パウロの「最も大切なこととしてわたしたちがあなたがたに伝えてことは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりにわたしたちの罪のために死んだこ

私たちの救い主イエス・キリストは、十字架に死んで三日目に復活された。この驚くべきメッセージを私たちは信じて、いまここにいます。世の人たちは信じるのが出来ないで、多くの証拠固めをしましたが、それはすべて徒労に終わりました。なぜならこの出来事は信仰の出来事であり、神の出来事です。このすばらしい喜びの出来事を始めに聞いた弟子たちですら「たわ言」としてしか聞き取ることが出来なかったのです。

私はあのナザレのイエスを、十字架の上で叫び声を上げて息を引き取られたイエスを、見上げさせていただく時、神がなされるみ業をしっかりと心の奥底に受け止めさせていただいて、私は「神は愛なり」と告白させていただく、その

の思いに導かれています。イエスがどのような思いで十字架への道を歩んでおいでになったか。苦悩の極みであったであろうと思っています。ところがヘブル書の記者は「彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないうで十字架を忍び」(ヘブル12:2)と、その時のイエスの思いを語るのです。イエスには勝利の栄光が見えていたと言うことです。イエスの復活の証拠探しなど愚かと言うほかありません。

パウロの「最も大切なこととしてわたしたちがあなたがたに伝えてことは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりにわたしたちの罪のために死んだこ

と、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。次いで五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そして最後に、月足らずでうまれたようなわたしにも現れました」(コリントー15:3-8)との証言以外のいかなるものをも必要としません。まことに主イエスは、復活されて「神の御座の右に座するに至ら」れたのです。私たちはこれを証言するのみです。

初めてイエス復活の知らせを聞いた弟子たちは、それを「たわ言」と退けましたが、すぐにその誤りに気づかせられます。次々と復活のイエスとお会いしたとの証言が飛び込んできたばかりか、彼ら自身が復活のイエスとお会いします。十字架に付けられたときに受けられた傷の痕をこの手で確認するまではと言っていたトマスでさえ、復活のイエスにお会いしたとたんに彼は「私の主よ」と信仰を告白したのです。何をそこに見るのでしょうか。

神は生きておられると言うことです。万物の創造主なる神は聖書が証言するように、造られてものすべて、そのひとつ一つをしっかりと愛し抜いておいでになると言うことです。この「ただの人」である私も、その選りからもれる者ではありません。どんなに私たちの英知を総動員して、解明しようと取り組んでも徒労にしか終わりません。なぜなら私はこれは神の出来事だと思っています。万物の主は、私たちの思いを越えて、驚くべき業をなさるお方です。私たちはそれを受けるのみです。しかし私たちの心は、確実に「燃え」ます。そして生きている喜びにあふれます。復活の主イエスが共に生きていて下さる印です

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
使徒言行録2:5-11 証しの仕方。

人々がどのように、十字架の主が待ち望んでいた救い主・キリストであるとの証言を聞いたのでしょうか。あのペンテコステの日、集まっていたあらゆる国の人たちが、母国語で語られる福音を聞いたと証言をしました。

この出来事は聖霊の働きによるのです。弟子たちは聖霊を受けてあらゆる国の言葉で語り始めました。神に逆らったバベルの時に、人類は精神的に混乱し分裂してしまったが、聖霊は分裂してしまった人類を一つに結び合わされました。それを嘲笑し批判する声も聞こえましたが、福音は告げられていきました

どのように語られたか。ここでなされたペテロの説教が見本です。預言者の言葉が実現したと言うことです。イエスが会堂で聖書を朗読され「この聖書の言葉は、今日あなた方耳にしたとき実現した」(ルカ4:16-21)と言われました。しっかりみ言葉を語ることです。神が働いておられることを語ることです。



Read God's Word.

次週の聖書・説教	ルカ24:13-34	心が燃えた
----------	------------	-------